様　式　Ｆ－７－２

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

1．機関番号　３２６０４

2．研究機関名　大妻女子大学

3．研究種目名　基盤研究(C)（一般）

4．補助事業期間　平成２６年度～平成２８年度

5．課題番号　２６３８０８５２

6．研究課題名　集団的尊敬による集団間紛争解決過程の解明

7．研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
２０４００２０２	クマガイ　トモヒロ 熊谷　智博	文学部	准教授

8．研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9．研究実績の概要

集団間紛争解決を促進する心理過程として、対立集団から尊敬されているという感覚、すなわちメタ尊敬の感覚が、集団間和解的態度に与える影響について、本年度は研究１として外集団に対する態度が生活満足度や経済状況に影響される可能性を要因に加え、日本全国300名を対象としたインターネット調査を行った。研究２では日本人500名を対象として中国人、韓国人、フィリピン人に対する現実的脅威、象徴的脅威及びそれを規定する要因として外国人住民の比率の影響を検討するインターネット調査を実施した。

結果は研究１ではこれまでの通りメタ尊敬が外集団成員の温かさ認知を強め、それを介して謝罪や補償と言った集団間和解的態度を強めていた。一方経済状況と主観的生活満足度は共に外集団に対する認知を否定的にしていたが、その効果は弱い事が明らかになった。

研究２ではこれまで通りメタ尊敬が外集団に対する温かさ認知を強め、それが集合的罪悪感や集合的羞恥を介して謝罪と和解に対する支持的態度を強める過程が確認された。また外国人住民の比率については総務省のデータから求めた実際の外国人住民比率に加え、主観的に知覚された外国人住民比率のデータを回答者の住所を元に都道府県、市区町村レベルで測定し、外国人に対する脅威知覚に与える影響の差を検討した。その結果中国人、韓国人、フィリピン人のいずれにおいても実際よりも外国人比率を高く知覚する傾向が見られ、その知覚された比率に基づいて外国人に対する脅威知覚が強められていることが明らかになった。

これらの結果はこれまでの申請者による研究結果と一致しており、集団間和解において尊敬の感覚が和解促進的な効果を持つこと、特にメタ尊敬という、外集団では無く内集団を対象としたポジティブな認知が集団間和解を促進する可能性を示す事が出来、紛争当事者の自発的な和解的態度を促す新たなアプローチを提供できた。

10．キーワード

(1) 集団間紛争　(2) 紛争解決　(3) 和解　(4)

(5)　(6)　(7)　(8)

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

11.研究発表

〔雑誌論文〕　計（２）件／うち査読付論文　計（０）件　（最終年度分）
／うち国際共著論文　計（０）件　（最終年度分）　／うちオープンアクセス　計（０）件　（最終年度分）

著者名	論文標題
熊谷智博	集団間和解的態度に対する大衆性の効果

雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
大妻女子大学紀要－文系－	無	49	2017	207-212	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著者名	論文標題
熊谷智博	外集団尊敬に対する愛着不安傾向の効果

雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
人生活文化研究	無	27	2017	33-38	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

〔学会発表〕　計（４）件／うち招待講演　計（２）件　（最終年度分）　／うち国際学会　計（２）件　（最終年度分）

発表者名	発表標題
Tomohiro Kumagai	Social psychological effects of fairness and morality on intergroup aggression.

学会等名	発表年月日	発表場所
The 31st International Congress of Psychology（国際学会）	2016年07月24日～2016年07月29日	Yokohama

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
Tomohiro Kumagai	Effects of positive meta-stereotype and sense of secureness on intergroup conflict resolution.	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
International Association for Cross-Cultural Psychology 23rd International congress（国際学会）	2016年07月31日～2016年08月03日	Nagoya

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
熊谷智博	集団の紛争はどのように悪化するのか―キャンプ実験を例に―	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
日本心理学会公開シンポジウム「紛争問題を考える」第2回 集団間紛争の諸相（招待講演）	2016年10月01日～2016年10月01日	東京大学駒場キャンパス

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
熊谷智博	集団間紛争におけるヘイトスピーチの機能	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
第10回日本感情心理学会セミナー（招待講演）	2016年12月17日～2016年12月17日	駒沢大学

〔図書〕　計（２）件　（最終年度分）

著　者　名	出　版　社		
熊谷智博	ナカニシヤ出版		
書　　名	発行年		総ページ数
社会心理学概説	2017		398(121-127)

（課題番号： 26380852 ）
（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

著　者　名	出　版　社
Tomohiro Kumagai	Doshisha University

書　　名	発行年	総ページ数
Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society	2017	109(101-108)

12.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕　計（０）件　（最終年度分）

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕　計（０）件　（最終年度分）

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日 出願年月日	国内・外国の別

13.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計（０）件　（最終年度分）

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

14.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

（１）国際共同研究：国際共同研究である

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	Philipps-Universitat Marburg	－	－	－
イギリス	University of Oxford	－	－	－
－	－	－	－	－
－	－	－	－	－
－	－	－	－	－
－				

15.備考